

<b>事業所名</b> 足守荘グループホーム	(クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付 平成16年7月28日	
<b>評価機関名</b> ㈱東京リーガルマインド	(クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b> A:現職 病院事務長 資格・経験 特別養護老人ホーム生活相談員歴3年以上・臨床工学技士資格取得 B:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員登録・ホームヘルパー2級・訪問介護員歴3年以上	
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など)
(1) 開設者は介護老人福祉施設など老人介護に熱意をもって取り組んでいる。その人らしい生活をするためには、「うつ症状」を除いた精神状態から介護を行なう必要があるという思いから、先駆的に本格的な「セラピードック」を独自に施設介護に導入し、大きな成果を上げている。たとえば、口数が少なかった人が犬と接するなかで、「お前も寂しいんか」と話し掛けたのをきっかけに、生活への張りを取り戻すなど心理的な癒しが得られている。
(2) 運営主体である足守内科クリニック・新足守内科医院が隣接する位置にあり、十分な医療サービスが提供される体制がある。
(3) 管理者はグループホームの現状の介護問題を自覚し、向上心をもって介護に取り組んでいる。
(4) 介護老人福祉施設3階の一部にあることで、施設同士の介護連携が可能である。
(5) 管理者と職員が目標を達成するために決めた介護理念(入居者主体)が、職員の所作や職員と利用者の会話の端々から感じられる。
(6) 介護老人福祉施設3階に配置されていることで施設介護的になりやすい環境を、廊下や部屋の装飾を工夫することで改善が図られ、十分に克服されている。
(7) 居室からは周囲の田園風景を見渡せ、季節感を感じられる。
<b>特に改善の余地があると思われる点</b>
3階テラスにあるプランターで野菜などが育てられているが、プランターを増設するなどしてもう少し「土」に触れる機会があるとういと思われる。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
<b>記述項目</b>	<b>グループホームとしてめざしているものは何か</b> ○高齢者のための医療・福祉・介護の総合ネットワーク「おかやま生き生きしあわせネットワーク」をバックボーンに施設、事業所、医師、専門スタッフが一体となって運営されている。信頼と安心を介護目標に据えている。 ○痴呆の進行をおだやかにし、利用者の残存能力を生かして、精神的に安定した日常生活を楽しめるようにという介護援助目的をスタッフが共有し、介護・援助サービスの提供を目指している。 ○全国に先がけて介護にセラピー犬を導入し、入居者がもともと持つ個別の感情を引き出そうとするなど、精神的側面から介護・援助することを大切にしている。 ○福祉は設備建物でなく、人的資源が一番肝要であり、職員が入居者の個人の思いを尊重することを大切にしている。このことは、物静かで自然な態度で介護をしている職員の姿から実感できた。		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
<b>記述項目</b>	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</b> ○入居者の精神的安定とその人らしさを尊重する介護ができる環境作りが重視されている。入居者手作りの紙細工が天井から飾ってあり、色彩豊かで、明るくかつ安定した雰囲気をかもしだしていた。 ○入居者の作成した刺し子等の手芸は、入り口ののれんに使われ、家庭的なやわらかさがある。 ○居室の表札表示等の工夫から、入居者個人の尊厳を守り、個性を大切にしていることが理解できる。 ○最も重点的に取り組んでいるのが、職員の入居者・家族に接する人間尊重の態度である。		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援		○
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
<b>記述項目</b>	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</b> ○管理者を中心に、担当職員はケース会議などを通じて、入居者一人ひとりの生活歴・職業歴・生活環境・家族環境・個性・性格・趣向をよく把握するようにしていた。それによってさりげない介護業務が自然で自発的に行えるまでにレベルを高める努力をしていた。日常業務を見直し改善する姿勢は評価できる。 ○個人の生活ペースを大切にしている。セラピー犬との交流や洗濯物たため・プランターへの水やりなど共同作業をすることで疎外感のない日常生活が送れるよう工夫をしている。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
<b>記述項目</b>	<b>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</b> ○法人代表者、管理者は常に職員と対話し、そこから希望・アイデアを積極的に吸い上げようとしていた。これは、ケアサービスの質的向上について熱意を持って取り組んでいることの証左であると感じた。 ○苦情の受付は、記録だけでなく内容やそこに込められた要望まで分析していた。より良いサービス提供に役立てようという気持ちの現れと思った。 ○介護従事者を採用する時に、介護の基本方針の説明をするだけでなく、その被採用者から仕事に対する意見を聞いて、職場の人間関係に生かす姿勢があった。より内容の濃いケアサービスの創出につながっている。		